

平成 28 年度事業報告

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

1. 自然と共に存した美しく持続可能なくにづくり・地域づくりに向けた普及広報、啓発教育事業

自然と共に存した美しく持続可能なくにづくり・地域づくりを実現するために必要な考え方、施策、事業等を広く普及啓発することを目的に、以下の事業を行いました。

(1) 政策提言事業

法律及び条例等の制定・改正、各種行政計画の立案や見直しに向けて、次のような活動を行いました。

特に、山本公一環境大臣はじめ与野党の国会議員に面会し、持続可能なくにづくり・地域づくりの必要性と、とるべき施策について提言しました。

○意見発表

11月2日、自由民主党予算・税制等に関する政策懇談会にて平成29年度予算・税制改正に関する要望

11月9日、公明党環境部会にて平成29年度予算・税制改正に関する要望

11月22日、民進党環境・原子力部門会議にて平成29年度予算・税制改正に関する要望

○意見書・要望書の提出

- ・ 種の保存法指定種および文化財保護法の天然記念物 アユモドキの保全に関する意見書
(4月22日、環境大臣および文部科学大臣あてに提出)
- ・ 新たな土地改良長期計画(中間とりまとめ)に対する意見(5月11日、農林水産省農(村)振興局あてに提出)
- ・ 森里川海をつなぎ、支えていくために(提言)(案)に対する意見(6月13日、環境省自然環境局あてに提出)
- ・ 平成29年度予算・税制改正に関する要望(11月2日～22日、各政党あてに提出)
- ・ 亀岡市都市計画公園及び京都スタジアム(仮称)の整備計画等に関する意見書(12月16日、京都府知事、亀岡市長あてに提出)
- ・ 京都スタジアム(仮称)整備事業に関する意見(1月31日、京都府公共事業評価に係る第三者委員会あてに提出)
- ・ 亀岡市都市計画公園及び京都スタジアム(仮称)建設影響評価に関する緊急意見(2月1日、京都府知事、亀岡市長あてに提出)
- ・ 「ニホンウナギの生息地保全の考え方(案)」への意見(2月28日、環境省あてに提出)

提出)

(2) 会報及び書籍の編集・発行事業

会報「エコシステム」を隔月で6号分を編集・発行し、自然と共に存した美しく持続可能なくづくり・地域づくりに向けた考え方や国内外の事例を紹介しました。

会報は、会員以外にも、国会議員、地方議会議員、国や地方自治体の職員、各種審議会委員、報道機関等へ無償配布しました。

平成21年1月に発行された『にほんのいきもの暦』の文庫版の発行（12月、KADOKAWA）にあわせ、内容の加筆修正を行いました。

(3) 地方自治体への情報提供事業

「つかさどる人のニュース」の編集・発行（1回）をはじめ、全国の知事や市町村長に対し情報提供や意見交換を行いました。

(4) ウェブサイト、各種報道機関等への広報事業

協会が運営するウェブサイト、ツイッター、フェイスブックのほか、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌等の媒体を通じ、協会の活動や考え方を普及広報しました。

特に、日報ビジネス(株)発行の雑誌「地球温暖化」では、連載記事を執筆しました。

5月30日、経団連自然保護協議会主催の「多様な主体の連携・協働の強化による生物多様性保全活動の推進」をテーマにした企業とNGO等との交流会に参加し、生物多様性の機能を活かした自然と共に存したまちづくりに関するポスター展示を行いました。

10月19日、「びわ湖環境ビジネスメッセ」のセミナー会場にて、生物多様性の定量評価をはじめ、企業の事業活動と生物多様性の保全のあり方について解説しました。

12月8日～10日、東京ビッグサイトで催された「エコプロ2016 環境とエネルギーの未来展」における生物多様性ゾーンに、三井住友信託銀行、（公社）日本ナショナル・トラスト協会との共同で出展しました。

協会の活動目的にあった映画の劇場公開にあわせ、鑑賞券プレゼントキャンペーンを3回行いました。

(5) 写真等の貸し出し事業

協会所有の写真や図版等の貸し出しを通じ、協会の名称や考え方を普及広報しました。

(6) 人材開発事業

環境問題に関する正しい知識と技術を持つ人材育成として、ビオトープ管理士及びこども環境管理士の資格認証並びにビオトープ管理士に関するセミナーを東京・大阪・福岡の3か所で開催しました。

ビオトープ管理士資格取得者に対する継続教育について検討しました。

ビオトープ管理士有志による日本ビオトープ管理士会の運営支援と、こども環境管理士取

得者の支援をしました。

(7) 学校・園庭ビオトープ普及促進事業

学校ビオトープ・園庭ビオトープの普及と質的向上を目的とした「全国学校・園庭ビオトープコンクール 2015」の報告書を作成し、応募校・園はじめ関係各方面に無償配布とともに、協会ウェブサイトにて公開しました。また、生き物文化誌学会にてポスター発表を行いました。

(公財) 三菱UFJ環境財団による学校ビオトープづくり支援助成の運営に協力することをはじめ、各地域における学校ビオトープや園庭ビオトープの推進体制の構築支援、個別の取り組みの指導助言を行いました。

そのほか、学校ビオトープや園庭ビオトープづくりとそれらの活用に関する問合せ対応や、園庭整備にあたっての指導助言・保育者の研修などを行いました。

(8) 環境講座事業

「持続可能な美しい社会づくりに向けて～いま、あなたができること～」と題した一般市民向けの環境講座を開催しました。

(9) 国内外の視察ツアー事業

8月21日～27日、「子どもの豊かな感性・協調性を育む 自然とのふれあいを大切にする園づくりツアー2016」をドイツにて実施しました。ツアーには幼稚園・保育所の施設長、保育者、大学の研究者など全国各地から参加があり、ザクセン州の自然豊かな園庭を持った幼稚園・保育所などを視察しました。

(10) 委員・講師派遣事業

以下の国や地方自治体等による各種委員会・検討会の委員などに役員・職員が就任しました。

自然再生専門家会議（環境省、農林水産省、国土交通省）

地域循環共生圏の構築に向けた有識者会議（環境省）

日本・世界をリードするトップランナー環境団体創出方策に関する研究会（環境省）

エコツーリズム推進アドバイザー（環境省）

埼玉圏央道オオタカ等保護対策会議（国土交通省）

関東地方ダムフォローアップ委員会（国土交通省）

福井県コウノトリ定着推進会議（福井県）

第4回生物の多様性を育む農業国際会議2016 実行委員会（小山市）

黒松内生物多様性保全奨励事業運営委員会及び選考委員（黒松内町）

河川水辺の国勢調査アドバイザー（鳥類調査）（水資源機構）

全国体験活動ボランティア活動総合推進センターアドバイザー（国立教育政策研究所）

第5回生物多様性日本アワード専門ワーキンググループ(イオン環境財団) など

以下の各所からの依頼に応じ、役員・職員を講師として派遣しました。

「とよま「人・川・里山」みんな元気になるまちづくり教室」（登米市）

「第11回登米市公衆衛生大会講演会」（登米市）

保育環境充実セミナー（兵庫県保育協会）

「東京シニア自然大学」（日本環境教育フォーラム）

その他、小学校、中学校、大学、企業 など

(11)市民活動支援

当協会と目的を同じくする国内外の個人及び市民団体と情報交換を行うとともに、活動に関する相談を受け、提言及び支援を行いました。

また、（一社）関東地域づくり協会の助成金を活用し、関東における水と緑のネットワーク拠点百選の支援を行いました。

(12)学生研修受け入れ事業

大学生4名、大学院生1名の研修を受け入れ、自然の重要性や公益活動の必要性について指導しました。

2. 自然と共に存した美しく持続可能なくにづくり・地域づくりに向けた 調査研究事業

行政や企業からの受託業務や助成金を活用し、国内外の自然生態系の保全・再生・創出に関する各種データの収集、分析等を行いました。また、これらの結果は、普及広報、啓発教育事業の基礎資料、具体的な事例として活用しました。

なお、海外からの情報は、国際部を中心としてアメリカ事務所及びヨーロッパ事務所等から収集するとともに、次の各国に理事・職員からなる調査団を派遣し、情報を収集しました。（ ）内は視察テーマ

- ・ 4月25日～30日 中国・北京市、成都市ほか（環境施策、退耕還林、天然林保護現場）
- ・ 5月11日～21日 アメリカ・ノースカロライナ州（生きている海岸線、沿岸湿地再生）、カナダ・マニトバ州（湿地・大草原保全、水鳥類管理、食害予防）
- ・ 6月13日～23日 ドイツ（国家洪水予防、ビオトープネットワーク、インクルーシブ教育）
- ・ 2月4日～11日 インド（都市に隣接する国立公園の管理・エコツアーエコロジカル・ネットワーク等）

(1) 国内外の関係法・条例等に関する調査研究事業

自然と共に存した美しく持続可能なくづくり・地域づくりに関する条約、法律、条例、行政計画、具体的な施策についての情報を収集・分析し、調査・研究を行いました。

(2) 自然生態系調査研究事業

自然生態系の構成要素である野生生物を中心に、その生態や生物多様性に関する調査・研究を行い保全活動に生かしました。

(3) エコロジカル・ネットワークに関する調査研究事業

コウノトリ、トキ等を指標とした地域づくりや、全国各地の河川・流域等におけるエコロジカル・ネットワーク計画の形成に必要な情報を収集・分析し、今後の施策等の研究を行いました。

全国の遊水地整備に関する調査の実施にあたり河川整備基金より、出水市における調査研究の実施にあたり（独法）環境再生保全機構の地球環境基金より助成金を受けました。

千歳川におけるエコロジカル・ネットワーク計画推進のため、長沼町に職員1名を長期派遣しました。

(4) ハビタット評価調査研究事業

（株）ダイヘン、首都高速道路（株）、野村不動産（株）などの所有する土地や事業における生物多様性の保全・改善の定量評価及び認証を行いました。

また、野草を活かしたまちづくり・地域づくりを進め、生物多様性を高めていくことを目指す「野のくさプロジェクト」は、参加事業地の現地調査等をしました。

(5) 自然再生に関する調査研究事業

国内外の自然再生の方法、評価等に関する調査研究を行いました。

(6) 自然災害と地域づくりに関する調査研究事業

熊本地震の被災状況などを調査し、得られた資料をもとに自然と共に存した美しく持続可能なくづくり・地域づくりに向けた構想の立案を行いました。

また、所有者不明の土地問題の現状や、社会経済情勢の変化を踏まえた新たな土地制度の在り方について調査研究を行いました。

(7) 環境教育に関する調査研究事業

持続可能な開発のための教育（E S D）を実践している国内外の情報を収集し、わが国における教育や保育の在り方についての調査・研究を行い、その成果を会報の編集や意見書へ反映しました。

また、国土交通省の荒川知水資料館の運営支援を通じて、流域の学校をはじめとした多様な主体に対する情報発信や学習支援などを行いました。

(8) 環境と経済に関する調査研究事業

エコツーリズムなどの持続可能な地域振興をはじめとした自然環境と経済との関係について調査・研究を行いました。

3. 自然と共に存した美しく持続可能なくにづくり・地域づくりに向けたナショナル・トラスト事業

(1) ナショナル・トラスト地保全事業

活動の趣旨に賛同する個人や企業・団体からの寄付金を活用し、自然生態系を守るために国内の土地購入又は寄付による所有に向けた調査検討を行いました。

三井住友信託銀行の寄付信託からの寄付金で取得した北海道黒松内町の「北限のブナ・トラスト地」において、三井住友信託銀行札幌支店・札幌中央支店主催（黒松内町協力）の保全作業に協力しました。

また、東京都日の出町大久野地区にあるトラスト地において、日の出町が実施する地籍調査の境界確認に立ち会うとともに現状を確認いたしました。

(2) ナショナル・トラスト活動支援

わが国におけるナショナル・トラスト活動を発展させるうえで必要な法律の制定や税制改正に向けた提言を行い、全国のナショナル・トラスト運動の発展に向けた協力を行いました。特に、（公社）日本ナショナル・トラスト協会の運営支援を行いました。

4. 自然と共に存した美しく持続可能なくにづくり・地域づくりに向けた自然保全・再生墓地事業

(1) 自然の保全と再生を目的とした墓地の整備運営事業

第1号地「森の墓苑」（千葉県長南町）の運営と整備を行いました。